

新型コロナウイルスがもたらした医療の変革

診療放射線主査 柴田 寿彦

新型コロナウイルスの感染対策として一部医療機関ではリモートによる診療が行われました。解析を含む結果は正式に発表になってはおりませんが将来的には、外来診療の方向性が新たに進んで行くものと思われます。診療の区分は細部まで、問口は広くで、検討されるのではないのでしょうか。診断に至る検査部門でも、一部A-Iが組み込まれております。また、放射線検査においては、遠隔読影の活用も進んでおります。デジタルで置き換えられないものは、そのままアナログで個々の役割を果たし、合理的で迅速な体

制が組まれていくでしょう。新型コロナウイルスによるパンデミックでは、各医療施設で医療人の大幅な人手不足が露呈しました。患者の集中を避けるため、都内ではネットワークによる情報の共有化とA-Iの活用を検討しています。外来診察に至るまでの問診・医療施設の選択・受付までの一連の操作をA-Iで行えるようになったら、右往左往して医療施設を探すこともなくなるでしょう。居ながらにして、医療を受けられる。そんな時代が近未来には実現するのではないのでしょうか。例えばA-Iを使い受診し、必要に応じて実際に来院し、検査や治療を受ける。結果は、A-Iや専門医を介して外来の医師より説明を受けることが現実となるかもしれません。

当診療所も町唯一の医療施設として、医師が代わっても現在行っている医療を提供していくために外来では外部の医師に協力してもらい、また放射線では遠隔読影を放射線医や専門医にお願いしつつ、新たな段階へと進めて行かなければならないと思います

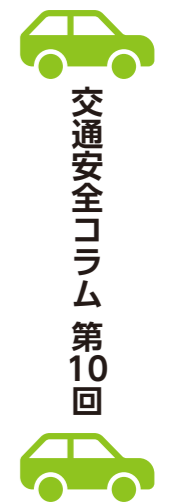
ーわたしと金山ー No.16

林 寛治

金山小学校第1期・校舎の設計について

金山小学校改築計画は、町の事業として中央公民館に次ぐ2件目のRC造(鉄筋コンクリート造)公共建築でした。めばえ幼稚園と保育園の改築を踏まえ、児童生徒が安心して学べる校舎を求めめる声が町民、町議会から強まったこと

もあつたようです。岸宏一町長からは、教育の現場と教育委員会との意見交換を密にして良く聞くこと以外の指示は、一切受けませんでした。予算や必要面積規模等についての資料は教育委員会が全て揃えてくれましたが、設計者として私から求めた情報は、校長や教頭よりも専任教職員からの意見聴取でした。私自身、四谷第六小学校、金山小学校、柏崎小学校と異なる小学校での転校生経験をしました。先生方が教育現場で何を考え、感じているかを知りたかつたのです。しかし設計・計画進行中に話をできたのは、



交通安全コラム 第10回

道路交通法上の「努力義務」、罰則が無いからといって侮っていると危険です!

自動車の後部座席のシートベルト着用 努力義務化について

【高速道路では罰則適用がありません】

平成20年の道路交通法改正により、自動車乗車時に後部座席のシートベルト着用が義務付けられました。後席シートベルトの不装着の罰則については高速道路走行時のみ違反点数1点を課せられますが、自動車乗車時は原則全ての道路で着用義務があります。

【後部座席での大けがにつながることも】

自動車運転中の交通事故で、意外と多い事例が後部座席に同乗している方の死亡や骨折・臓器損傷などの大けがです。これは、シートベルトをしていなかったために、体を車内に強打したり、体ごと車外に放り出されたりするからです。令和3年4月に京都市で発生した交通事故では、乗車していた4名のうち、シートベルトを装着していた前席の2名が負傷し、後部座席でシートベルトを着用していなかった2名が死亡するという痛ましい事故が発生しています。運転中の事故は、自分が気を付けていても

発生してしまうことがあります。万が一に備えて、自動車に乗車する方は前席、後席にかかわらず、いつでもシートベルトを着用するよう心がけましょう。

自転車利用者のヘルメット着用 努力義務化について

【自転車利用者のヘルメット着用が 努力義務化されました】

道路交通法の改正により、令和5年4月1日から全国で自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されました。山形県では、実は令和元年12月から県条例によりヘルメットの着用が努力義務となっておりましたが、この度、全国一律に規制されることとなり、再び話題となっています。

【自転車死亡事故の約7割が 頭部に致命傷を負っています】

自転車事故では、ほとんどのケースで頭部にけがを負っています。警視庁の統計によると、ヘルメットを着用していない場合の致死率は、着用している場合と比較すると約2.3倍も高くなっています。

【ヘルメットを着用しましょうー】

すでに町内の小中学生や一部の企業では通勤・通学時のヘルメット着用を義務化している団体もあります。最近ではヘルメットの需要が高まったため、デザイン性の高いおしゃれなヘルメットも販売されています。通勤・通学時に限らず、自転車利用時はヘルメットを着用しましょう。

校長先生との一回きりで、伝えられた先生方からの要望は掲示板を旧校舎よりも大きく採ってこれということのみでした。疎開した金山小学校では真夏の蒸し暑さと吹雪の冬を、吹き抜けたの屋体教室で体験しましたから、新校舎に対しては、夏は風通し良く、冬は可能な限り太陽光が全普通教室の奥まで届くようにすることを心がけました。

限られた予算の中で、耐寒対策として東北地方では未だ一般化していなかった窓全体のペアガラス(2重ガラス)仕様として、断熱効果を高めることにしました。ペアガラスは後に続く有屋小学校、中田小学校でも通例となりました。

当時、学校建築の暖房は石炭や薪のストーブから集中暖房に変わりつつありました。しかし低学年と中高学年では授業時間帯が大きく異なることや、図工・家庭科教室等、特別教室の使用時間が同時使用にならないことから、すべての部屋の面積に応じたFF式灯油ストーブ暖房を個別操作する方式としました。旧式に見える暖房方式ですが目に見えて省エネ効果は大きかつたし、FF灯油ストーブ

の交換が簡略であることも維持管理に利したと考えます。ある時、岸英一元町長から呼び出され、下校した誰もいない低学年教室でストーブがガンガンに焚かれている。とお叱りを受けたことがあります。残務を職員室ではなく教室で行うことを好む先生もおられたのかもしれない。教育委員会を通じてやんわり注意してもらいました。

各教室開口部は空が広く見えるように大窓を上に、小窓を下にしています。着座姿勢で目の高さが小窓の中心位だと、よそ見した時に落ち着きますし、小窓は身体を乗り出すこと無しに容易にガラス拭き出来るからです。後の現・診療所病室の窓も同じ考え方です。ここまで基本的な機能についてのみを記しました。

岸宏一町長からの指示がなかったことが逆に重圧になりました。それは金山の建築が地域に根差しつつも普遍的であるべきであり、公共建築は特に一過性の流行建築にしない、という暗黙のサインでもあつたからだと思ひます。

前鈴木木町長時代の2013年に、耐震補強工事に合わせて1回目の大規模補修を行いました。こ



▶中高学年棟2階、4年生の教室授業。ブライント設置前のカット、撮影・新建築社

のときヴォールト状(かまぼこ型)のガラスブロック製大窓を撤去することも考えられていましたが、東日本大震災、秋田沖地震、上越沖地震にも耐えたことに鑑みて電力省エネを考え教室のLED照明化を優先することにしました。大屋根は下地とともに朽廃状況でもあつたので、上屋根を被せて遮熱空気層をもつ二重屋根としました。軒の出が深くなったことで下の雨受け溝からずれています。これは校庭側中庭とともに次回補修時の宿題としました。